長沼町総合振興計画審議会　福祉部会（第３回）議事概要

開催日時：平成２３年１月１１日（火）9:05～11:55

開催場所：長沼町役場　第７会議室

【出席者】

＜審議会委員＞５名

後藤部会長、桂委員、十河委員、田近委員、安田委員

＜長沼町役場総務政策課＞

高井企画官、長井補佐

【会議録】

１　開会

後藤部会長

今年もよろしくお願いいたします。計画の案につきまして、引き続きよろしくご審議をお願いいたします。

２　議事（後藤部会長が議長となり進行）

後藤部会長

前回は第５節までを審議しましたが、ここまでについて新たに意見等はないでしょうか。

私からですが、第２節の病院のありかたについて、「病院と商業施設の連携」を検討していただきたいと思います。

後藤部会長

第６節「ひとり親家庭等に対する福祉の充実」について。親が働きに出ている間は、家族は子どもだけにある。「ほっこり」のような、健全に遊べるところがあれば良いと思う。地域で子どもを見守ってあげることができればよいが。

桂委員

PTA、学校、警察などが横につながった、子どもを見守る組織が必要と感じる。学校のグラウンドで、遅くまで子どもが遊んでいたのを誰かが見て警察に連絡したということがあったが、警察から学校に連絡すると、学校側から「うちの学校の子じゃないから」と言われたので、警察自ら「家が遠いし遅い時間だから早く帰りなさい」と注意したことがあったそうだ。組織化されていれば、すぐに動くことができたのにと感じた。

田近委員

以前、学校では「さようなら」と校門を出たら関与しないという見解を聞いたことがある。事務的に感じた。

後藤部会長

先生は、昔は教育者だったが、今はサラリーマンという考えかもしれない。ただ、今は先生にとっても昔と比べて多種多様な問題があり、そこまで手が回らないのかもしれないが。

後藤部会長

では、第７節「障がい者（児）福祉の充実」について。

田近委員

障がいを持ち、あちこち転々としていた方がいた。長沼にも一時期住んでいて、趣味を持っていたが、続けられなかったようだ。そういう人だからこそ、趣味のことを一生懸命覚えるのに。

安田委員

通院などに関するケアはあるが、障がい者の生きがいに関するケアはまだないと感じる。

桂委員

作業所のような働ける場所があると町内で住むことができ、親元を離れないですむ。ただ、民間では少数の人たちのためにそれだけの投資ができるかは非常に難しい。行政の支援が必要なことだと思う。

安田委員

たしかに１町だけでは難しいので、広域も含めての検討になると思う。

後藤部会長

障がいを持つ方は、デイサービスに楽しんで行っている人も多い。老人クラブの例会は、デイサービスの無い曜日に開催している状況である。

後藤部会長

第８節「生活援護の充実」について。全国的に生活保護受給者が増加している現状である。その一方で、不正受給が問題になっている。

十河委員

札幌では、不正受給のないようにきちんと調査していると聞いたことがある。おそらくどこの自治体でも不正受給に敏感になっているのでは。

桂委員

要援護者は純粋に応援したいと思うが、不正受給のできない制度にしてほしい。昔は生活保護の世話になるのは恥という意識があったのだが。

後藤部会長

今は個人の意識が強くなってしまったように感じる。他の人に迷惑かけても何も感じない人がいるのは非常に残念だ。

また、「関係機関団体等と連携を深めながら・・」とあるが、このとおり横のつながりが重要であると思う。

安田委員

生活保護を受けることができる水準の人でも、受けずにまじめに頑張っている人もいる。本当に必要とする人にだけ支援できるよう、認定する段階の調査をしっかり行ってほしい。また、部会長の言うとおり、「連携を深めながら」の実践が重要である。

桂委員

生活保護を認定する調査員より、隣人のほうがよくわかるのではないか。今は民生委員でも誰が受給しているのか分からない状況である。生活保護は社会保障制度の最後の砦であり、ぎりぎりの人を救ってあげるものなのに、それを利用されるのが悔しい。

田近委員

確かに今でも、生活保護などの世話になりたくないと考える人もいる。また、若い方でも、民生委員と聞いただけで「うちは関係ないから」と突っぱねる人もいる。ただ、本当に必要

な人には支援を。あるお宅で、生活保護の受給申請をしてから、受給が認められ家に電気が点くまで（外から）様子を見に行ったことがある。電気が点いたときはほっとした。

後藤部会長

第９節「介護保険の充実」について。

安田委員

一人暮らしの家庭が特に問題になると思うが、一人暮らしの高齢者は多いのだろうか。

田近委員

一人暮らしの高齢者に対しての声かけなどを民生委員で行っているが、結構多い。

桂委員

冬に除雪がされておらず、足跡もない家があり、近所の方は「娘さんのところに行ったのだろう」と思っていたようだが、実は急遽老人ホームへ運ばれたという人もいた。親戚しか知らないという場合もある。

４年ほど前に、高齢者の安否確認情報を作成したのだが。

十河委員

４年ほど前に作成したものは、全集落ではできていない。全体の３分の２くらいできていると思うが、ただもうそれ自体が風化している。札幌などでは、高齢者の住まいをマップで管理している。

田近委員

民生委員の活動をしていると、個人情報が過剰なほど保護されているように感じる。町営住宅を訪問した際、番号のみで名前が無く、どこを訪問すればよいか困ったことがあった。また、私たちが訪問に訪れている高齢者が移動した際、私たちに移動したという連絡が無く、社会福祉協議会に問い合わせるなどし、例えば「施設に入った」などと把握する状況である。

十河委員

一人暮らしの高齢者は緊急通報装置をつけている人も多い。腕時計式につけたりするもので、緊急時にボタンを押すと消防署へ連絡が行く仕組みになっている。ただし、３～４年前にあったことだが、その装置を付けていながら玄関で倒れていた方を、社会福祉協議会の方が発見したことがあった。この装置が万能という訳ではない。倒れていた方は助かって良かったが。

後藤部会長

計画で「在宅での生活を続けられるような・・」とあるが、認知症が進んでいったら大変困難であり、介護するほうが倒れてしまうかもしれない。個人では無理だと思う。介護保険制度をつくったのだから、家族が安心して暮らせるような体制にしてほしい。

桂委員

我が強くて輪を乱す人がいなければ、グループホームは大変良いと思う。独居老人ばかりの過疎地域となるより、そこに意欲のある新規就農者が入ってくれば理想だが。地域社会のためにも、健康で生活することが大事なことだが、若い人に住んでもらい、子どもを産み育ててもらうことが重要。制度を支えるのは若い人であるが、若い人ばかりに負担させるわけにもいかない。

後藤部会長

ながぬま内科の裏手にできる老人ホームでは、野菜畑をつくりたいと聞いた。畑仕事で健

康増進にもつながると思う。また、安心して子どもを産むことができる社会にすることが、この制度の将来的な継続に限らず重要なことである。

後藤部会長

第１０節「社会保障の充実」について。

桂委員

健康で暮らすためにも、相談に対し親身になってくれる「いい医者」を、町民みんなが持つことが大事なことだと思う。町内にそういう医者は大勢いると思う。

安田委員

生活習慣病予防として、毎年人間ドックを受けている。経年変化を１枚の診断結果で見られたら便利と思う。

田近委員

長沼町国民健康保健の特定健康審査事業の検査結果は、りふれの保健師さんが経年変化で把握している。今、保健師さんたちも真剣に取り組んでいる。

安田委員

病気にならないことが重要で、その対策は町でよく取り組んでいると思う。

桂委員

早期発見、早期治療が、健康にも医療費の軽減にもつながる。

後藤部会長

そのほか、全体を通して、何かございませんか。

田近委員

昨日テレビで見たが、岩見沢での移動販売車の紹介をしていた。買い物に不便を感じている一人暮らしの高齢者などがよく利用するそうだ。販売者がインタビューで、「便利になったこの時代に、このようにしないといけないのは時代に逆行しているように感じる」と話していた。

安田委員

実際に今は、その移動販売が必要とされている。

十河委員

私も夏は多忙のため、カタログで生協に注文している。ものはとても良いと思う。

後藤部会長

東京の早い時期にできた団地について、入居者の高齢化に伴いさびれていると聞いた。出歩かず買い物にも行かなくなり、近くの商店街も廃れてしまったそうだ。若い人も一緒に住んでもらうことが重要であり、いろんな世代が混在しないといけないと感じた。

若者が望むのは働く場所や娯楽、一方で高齢者が望むのは社会保障や自然環境などである。やはり、何か１つに特化するのではなく、すべてがある程度揃っていないといけないのではないか。以前近隣４町で合併の話があったが、もしも合併するとしたら、似たようなところよりも働く場所や娯楽が多い道央圏の市と合併したほうが、メリットが大きかっただろう。

桂委員

農産加工施設や高齢者関係施設が働く場になることが理想。若者が町に定住すると、消費の拡大や出産など波及効果が大きい。先日成人式があったが、長沼も新成人の数が減っては

いるが近隣と比べると多いほうである。若者に魅力を持ってもらう町になってほしい。

後藤部会長

第４章以外では、例えば第２章の第３節「交通網の整備」、第６節「住環境の整備と定住促進」なども福祉と関連するところがあるかと思いますが、いかがでしょうか。

桂委員

交通網と言えるかどうかわからないが、２、３年前に札幌のタクシー会社で定年になった人が提案し、「地域の雇われ運転手」を行っているそうだ。地域の高齢者が集まって出資し、運転手を雇っている。これまでの車の維持費や交通費を、運転手の雇用に振り替えている。こういう方法も考えられるのではないか。

後藤部会長

前回も話したとおり、喜茂別では１６の集落で送迎をするボランティア活動を行っている。町営のデマンドバスの利用率が現在今ひとつのようなので、利用しやすい方法を考えたほうがよいのではないか。現在は試験運行なので、バスを必要とする人たちのニーズを把握するということもあるのはわかっているが。

田近委員

（予約しないと玄関前まで行けないのはわかるが、）予約が面倒という言葉をよく聞く。実際にバスを必要とする人たちが声をあげて、よりよいものにしてほしいと思う。

桂委員

第５章第１節の「農業の振興」について、農業の町としてはもっとボリュームがあってもよいのではないか。荒廃地については長沼では少ないが、そういう対策が必要。

十河委員

町内でも北と南では土壌が違い、地力は南のほうがある。荒廃地が見られる北と違って南は農地の買い手・借り手がすぐ見つかるようだ。

桂委員

長沼では、工業よりも、農業とそれに関連する商業の振興が中心になるのではないか。農業振興が第一で、それがないと町は発展しない。

安田委員

町、農協、普及所が連携して農業を振興している。これからも一体となって振興することが必要である。

十河委員

企業の誘致といっても、北海道は冬の積雪期間があるため、内地の企業は北海道より外国に目が行っている状況と聞いた。道内企業が長沼に進出してくれればとは思うが、やはり中心は農業の振興ではないだろうか。

後藤部会長

基幹産業である農業が振興され、農家が元気になれば町全体に波及されるのではないか。

（了）